

学 長 及 び 教 員 の 個 人 調 書 (記入例)

様式第4号 (その1)

記入例 1 / 4

履 歴 書			
フリガナ 氏 名	サトウ タロウ 佐 藤 太 郎 〔外国人の場合「姓・名・ミドルネーム」の順に記入〕		写 真
生年月日 (年齢)	平成〇〇年〇〇月〇〇日生 (満〇〇才) 〔令和8年4月1日現在の満年齢〕		
現 住 所	〒603-〇〇〇〇 京都市北区上賀茂〇〇町1-12		
	TEL (075) - (000) - (000) 携帯電話 (090) - (0000) - (0000) E-mail ()		
学 歴			
年 月	事 項		
昭和〇〇年3月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科卒業		
昭和〇〇年4月	〇〇大学大学院〇〇研究科修士課程〇〇学専攻入学		
昭和〇〇年3月	同 修了		
昭和〇〇年4月	〇〇大学大学院〇〇研究科博士課程〇〇学専攻進学		
昭和〇〇年3月	同 修了 (又は) 同 単位取得満期退学		
昭和〇〇年3月	〇〇博士 (〇〇大学) (又は) 博士 (〇〇学) (〇〇大学)		
〔旧制高校, 旧専門学校の学歴は記入して下さい。〕 〔称号等は記入して下さい。〕 〔学位番号は記入不要です。〕			
職 歴			
年 月	事 項		
昭和〇〇年4月	〇〇株式会社入社		
昭和〇〇年3月	同 退職		
昭和〇〇年4月	〇〇大学〇〇学部 (〇〇研究所) 助手 (昭和〇〇年〇月まで)		
昭和〇〇年4月	〇〇大学〇〇学部非常勤講師 (平成〇〇年〇月まで)		
昭和〇〇年4月	〇〇大学〇〇学部講師 (昭和〇〇年〇月まで)		
昭和〇〇年4月	〇〇大学〇〇学部助教授 (平成〇〇年〇月まで)		
平成〇〇年1月	文部科学省教員組織審査において, 京都産業大学〇〇学部〇〇学科教授 (〇〇学, 〇〇論) として認定		
平成〇〇年4月	〇〇大学〇〇学部教授 (〇〇〇〇担当) (現在に至る)		
平成〇〇年1月	文部科学省教員組織審査において, …D◎教授…認定		
平成〇〇年4月	〇〇大学大学院〇〇研究科D◎教授 (〇〇〇特別研究担当) (現在に至る)		
平成〇〇年4月	〇〇大学学生部長 (平成〇〇年3月まで)		
〔現在の主要担当科目を記入して下さい。〕			
〔現職には必ず付記して下さい。〕			

学会及び社会における活動等

年 月	事 項
昭和〇〇年 4 月	〇〇学会会員
昭和〇〇年 4 月	日本〇〇学会会員
昭和〇〇年 4 月	〇〇学会幹事（平成〇年 3 月まで）
昭和〇〇年 4 月	〇〇学会〇〇委員
昭和〇〇年 4 月	〇〇学会会員
	〔加入年月順に記入して下さい。〕 〔<u>現在加入の</u>すべての学会の加入年月，学会名（フルネーム）を記入して下さい。〕

賞 罰

年 月	
平成〇〇年〇月	〇〇学会〇〇賞（論文名 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇） 「過去に学生に対するセクシュアルハラスメントを含む性暴力等を原因として懲戒処分若しくは分限処分を受けた場合には、処分の内容及びその具体的な事由を必ず記入して下さい。」 「賞罰がない場合は、「なし」と記入して下さい。」

職 務 の 状 況

[illegible]

上記のとおり相違ありません。

令和 年 月 日

氏 名 佐 藤 太 郎 (印)

教 育 研 究 業 績 書		
令和 年 月 日		
氏 名 佐 藤 太 郎 ㊞		
教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例 ・優れた教育方法の実践例、マルチメディア機器を活用した授業方法、学生の授業外における学習促進のための取り組み、講義内容のweb上での公開 等		
2. 作成した教科書、教材 ・作成した教科書、教材、講義で教科書として使用している著書、教材等の概要（後の「著書、学術論文」との重複も可。その場合、「(再掲)」と表示）		
3. 当該教員の教育上の能力に関する大学の評価 ・各大学での自己点検・評価の一環として、教育面で高い評価を受けた事実（その事由と評価内容） ・採用決定の際等における教育上の能力に関する評価 ・学生による授業評価、教員同士の相互評価等をまとめたもの ・上記以外で、学長、学部長、諸機関等が行った評価（客観性を持ったものについて記載）等		
4. その他 ・大学教育改善に関する団体等での活動の概要 ・教育実績に対する受賞歴 等		
職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
○企業、官公庁等の研究者の場合 ・開発した新製品・製法、作物等の新品種などの概要 ・取得した特許等の概要 ・大学との共同研究による研究実績がある場合、その概要、成果、当該研究者の役割 ○ その他、企業・団体等関係者 ・国際援助・開発、先端技術、国際金融等高度に専門的な実務に従事した実績 ○ 情報技術者関係の場合 ・コンピューターに係る職務歴（職務上のコンピューター活用法、ソフト・システム開発歴） ○マスコミ関係者の場合 ・執筆した記事の概要 ・作成した番組の概要 ○法曹関係者の場合 ・関係した訴訟等での活動や判決の概要 ○医師や看護師等医療技術者の場合 ・症例研究会での発表等の活動 ○福祉その他社会活動の関係者の場合 ・参加した活動や団体の名称、活動内容・期間、本人の当該活動における地位 ○スポーツ等実技関係者の場合 ・指導者としての経歴・実績・資格 ○芸術関係者の場合 ・作品の概要 ○博物館、美術館等関係者の場合 ・担当した展覧会の概要 ・執筆・監修した展覧会図録の概要 ○その他全般を通じて ・大学から受け入れた実習生に対する指導歴（看護・福祉実習、企業実習等） ・企業内教育、大学公開講座、社会教育講座の講師としての講義等の概要		

教 育 研 究 業 績 書				
令和 年 月 日				
氏 名 佐 藤 太 郎 印				
著書，学術論文等の名称	単著， 共著の別	発 行 又 は 発 表 の 年 月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著 書) 1 ○○○○○○○○ ○○○○	共 著	平成 5 年 8 月	学術図書出版 ↑ 〔同じ発行所等でも 省略しない。〕 ↓	〔概要は少なくとも 200 字程度で簡潔をお願いします。〕 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○。 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 (本人は第 2 章を担当した。PP. 212-228) (編者○○○，○○○○，佐藤太郎，○○○) ↑ 〔共著の場合は，担当部分及び頁数を明記し，又， 本人の氏名を含み著作書全員の氏名を当該著書 に記載された順に記入して下さい。〕 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○。
2 ○○○○○○○○ ○○○○ ↓ 〔以下，年代順に記入〕	単 著	平成 7 年 1 1 月	オーム社	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○。
(学術論文) 1 ○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○ ○○○○○○	単 著	平成 ○ 年 7 月	日本○○学会誌 第○○巻，第○号 Vol. ○○，No.○○ PP. 53-60	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 和文は第○巻，第○○号，PP. ○○-○○ ← 欧文は Vol. ○○，No.○○，PP. ○○-○○ 〔ページ数を記入して下さい。〕 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○。
〔欧文はタイプ，ワープロ 又は活字体手書き〕 ↓			↓	
2 The ○○○○○○ ○○○○ of an ○○○ ○○○○○○○○○○	共 著	平成 ○ 年 3 月	Journal of ○○○○ ○○○ Vol. 89， No.5 PP. 134-142	〔欧文は必ず和訳〕○○方式○○に有効な○○○ ○○○○○比較する○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○実験的に○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○解析した。 (本人は○○部分を担当した。PP. ○-○) (○○○○，佐藤太郎)
3 ○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ (学位論文) ↑ 〔学位論文の場合記入する。〕 〔学位論文の内容が他の論文を単にまとめた場合 は番号をカウントしない。又，学位論文も年代順 に繰り入れて記入し，特別に最初又は最後にしな いで下さい。〕	単 著	平成 ○ 年 3 月	○○大学	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ →〔学術論文番号○～○までの内容をまとめたも のである。〕
(その他) 1 〔上記の例に準じて記入して下さい。〕				○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○。
以 上 著 書 5 編 学術論文 3 5 編 ← 〔これまでの教育研究業績のすべてを加算の上ご記入願います。また，該当のない場合は 0 を そ の 他 3 0 編 記入して下さい。〕				